



社会福祉法人

豊心会

令和4年度
事業報告書

令和5年5月18日作成

令和4年度事業報告【総括】

① 事業所別予算に対する実績

	令和3年度		令和4年度	
	予算達成率	稼働率	予算達成率	稼働率
特 養	101.9%	95.7%	101.7%	96.6%
ショート	101.3%	95.4%	93%	88.6%
デイサービス	76.5%	69.2%	90%	61.2%
居 宅	105.4%	延べ人数 1,659 人	107.9%	延べ人数 1,971 人
訪問看護	91.5%	総訪問回数 3,613 回	90.7%	総訪問回数 4,532 回
配 食	101.2%	総配達数 15,199 食	94.7%	総配達数 14,147 食
合 計	96.6%		98.1%	

② 運営

令和4年度は当初予算の達成には至らなかった。サービス活動収益は前年度と比較し、2,300万円余りの増となったが、当初予算達成には至らなかった。特養及びショートステイ、カラフルデイサービスセンターで職員及び利用者に複数のコロナ陽性者が確認され、クラスターとなったことが主たる要因。明翔苑では感染拡大防止の観点からショートステイの利用休止やキャンセル等による稼働率低下があった。カラフルデイサービスセンターでも休業や定員減による営業が続いたことがある。一方で支出では、物価高騰の影響を大きく受け1000万以上の増となった。事業費は前年比で116%増、特に電気代は前年比で約143%増、ガソリン等の燃料費は110%増、ガス代は前年比108%増となり、事業継続の観点からは、平成16年の開設以来、最も厳しい1年となった。

このような状況の中ではあったが、都度改定を重ねたコロナ対策マニュアルをもとに、組織的な対応を進めたことで大規模クラスターを回避し、比較的短期間で終息することができた。このことが行政にも高く評価され、支援のため来訪した県の医療支援チームからは、「これまで支援に入った事業者の中で最も組織的な対応ができており、自信をもってほしい」と評価をいただき、12月6日(火)には県主催の「社会福祉施設における新型コロナウイルス感染症対応研修会」～特養・老健・障がい者支援施設等入所施設編～にて事例発表を依頼され、理事長が発表した。(参加団体数107以上、参加者数300名以上)今後も適宜マニュアル等を改定し、より対応力を向上していく。

中期ビジョンに掲げる法人内・各事業所における重点的取組みについて、各委員会が所管し、成果目標を定めて継続的に取組んだ。コロナ禍の影響を受け、計画通りに進まない委員会もあったが、令和5年度末の第1期(3箇年)満了までのスケジュールを明確にし、引き続き中期ビジョン達成に取り組んでいく。

【法人本部】

1.本部事務

(1)理事会等の運営、監事監査執行のための事務業務を滞りなく実施した。

令和4年度は、理事会を6回(書面決議含む)開催した。

①第105回 理事会 令和4年5月27日(金)

(決議事項)

- ・令和3年度事業報告及び計算関係書類並びに財産目録の承認について
- ・第15回定時評議員会のご案内(案)について
- ・借入金について
- ・社会福祉法人豊心会正職員就業規則の一部変更について(勤務時間の変更)
- ・社会福祉法人豊心会準職員就業規則の新設について
(嘱託職員の任用に関する規定及びパート職員の任用に関する規定の廃止)

②第106回 理事会 令和4年9月20日(火)

(決議事項)

- ・社会福祉法人豊心会 育児・介護休業等に関する規則の一部変更について

③第107回 理事会 書面決議 令和4年11月25日(金)

(決議事項)

- ・駐車場の賃貸借契約書を土地賃貸借契約書に変更する件について

④第108回 理事会 令和4年12月27日(火)

(決議事項)

- ・令和4年度第1回補正予算案について
- ・第16回臨時評議員会のご案内(案)について

⑤第109回 理事会 書面決議 令和5年2月17日(水)

(決議事項)

- ・令和5年3月1日 明翔苑デイサービスセンター開設について
- ・社会福祉法人豊心会経理規程の一部変更について
- ・第17回臨時評議員会の開催のご案内(案)について

⑥第110回 理事会 令和5年3月24日(金)

(決議事項)

- ・令和4年度最終補正予算案について
- ・令和5年度事業計画及び収支予算案について
- ・借入金について
- ・社会福祉法人豊心会正職員就業規則の一部変更について
- ・社会福祉法人豊心会給与規程の一部変更について
- ・住宅確保要配慮者住居支援法人の指定に伴う定款の変更について

令和4年度は、次のとおり監事監査を実施した。

①監事監査 令和4年5月17日(火)

- ・令和3年度資金収支決算書、財産目録及び貸借対照表等について
- ・その他

令和4年度は、次のとおり評議員会3回を開催した。

①第15回 定時評議員会 令和4年6月13日(月)

(決議事項)

- ・令和3年度計算関係書類及び財産目録の承認について
- ・借入金について

(報告事項)

- ・令和3年度事業報告について

②第16回 臨時評議員会 令和5年1月13日(金)

(決議事項)

- ・令和4年度第1回補正予算案の承認について

③第17回 臨時評議員会 令和5年3月28日(火)

(決議事項)

- ・令和4年度最終補正予算案の承認について
- ・令和5年度社会福祉法人豊心会の事業計画並びに収支予算案の承認について
- ・借入金について
- ・住宅確保要配慮者居住支援法人の指定に伴う定款の変更について

(2)本部運営に係わる各種登記手続きを滞りなく実施した。

(3) 年度事業計画・評価・事業報告を計画的に取りまとめ、事業の円滑化推進に取り組んだ。

2.財務管理

(1)収入の確保に向けて、介護報酬改定の加算要件等の点検に取り組んだ。

(2)財務諸表等電子開示と社会福祉充実財産の算定等を行った。

(3)各事業所にて、収支・支出の予算管理を行い、戦略や活動修正を促し、利益を図れるよう努めた。

3.人事・労務

(1)職員の欠員によるサービスの低下が生じないように、関係機関と連携し、速やかに欠員補充に取り組んだ。

(2)労務関係の必要な情報、雇用情勢などを整備し、職員が働きやすい環境の推進に努めた。今後一層取り組んでいく。

(3)ハローワーク、ホームページ、オンライン等を活用し、雇用を図れるよう努めた。

4.庶務管理

(1)事務業務関連の書類について、適切に管理運用できる環境整備を推進に取り組んだ。

(2)必要に応じて、行政等の関係機関へ速やかに調査報告・届出を行うとともに届出書類の電子化を推進し、届出業務の省力化・効率化に努めた。今後、一層取り組んでいく。

5.衛生管理

(1)健康診断の結果で要精検が出た方への再検査の要請及びチェックを行った。

(2)日常の健康管理や居住環境の向上に努めるとともに、施設内にインフルエンザ・新型コロナウイルス等が持ち込まれないよう、職員や面会者等の手消毒や健康チェック等に取

組んだ。

6.設備管理

- (1)建物・機械整備について、有資格の専門業者による定期法令点検を実施するとともに、必要に応じ補修し、建物・機械整備の安全性や本来機能の維持に取り組んだ。
- (2)施設内におけるエネルギー使用量(暖房・水道光熱費等)を検討し、省エネルギー化・経費節減化に努めたが、今後一層取り組んでいく。

7.安全対策

- (1)業務内外を問わず、車輛安全運転・交通事故防止の周知・徹底に取り組んだ。
- (2)職員が災害防止の活動に取り組み、危険に対する認識・安全意識を高めることに努めた。

8.その他

- (1)生産性検討委員会 ICT 化推進 A チームでは、業務の効率化を行う為に、介護ソフトの選定及びデモを行った。また、同委員会 ICT 化推進 B チームでは、適正な労働時間の管理を行う為、勤怠管理システムの導入に向け検討を行い、システムの選定及びデモを行った。令和 6 年度にシステム移行する為、来年度も引き続き、選定及びデモ等を検討していく。併せて福祉支援の質の向上として、講師をお呼びし「根拠に基づく介護の標準化」研修を行い 1 期生が終了、引き続き 11 期生まで計画的に実施していく。
また、適切な労務管理を行う為、社会保険労務士との協議を毎月行った。引き続き適切な労働管理が出来るよう、協議を行っていく。

【特別養護老人ホーム】

今年度の退所者は 17 名（看取り 7 名、看取り以外の死去 2 名、医療機関での死去 4 名、転院 4 名）であった。また、退所から次の入所までの平均日数は前年度 18.05 日（前々年度 13.18 日）であったが、本年度は平均 18.11 日となった。

要因として在宅からの入所が多くあり、入所前の検診受診や検診結果が出るまでに時間がかかり、日数が伸びてしまった。入退院等の支援に関しては、まねネットのオンライン会議機能を活用したオンラインカンファレンスに多職種で参加し、退院後の質の高いサービス提供につなげていく。

感染症対策については、職員及び利用者複数の感染者が確認され、クラスターとなったが、対策マニュアルをもとに、迅速な初動対応と情報共有及びゾーニング等の対応を進め、限られたマンパワーの中で基本業務に業務を集中し、組織的な対応を行ったことで、比較的少人数・短期間で終息することができた。

また、本年度は特養にて誤嚥による死亡事故が 2 件発生、専門家による事故調査を行いつつ、事故発生から入院、入院先でのご逝去、ご遺族に対する謝罪等を含むその後の経過及び再発防止策などを含め、松江市へ事故報告書を提出した。特養の平均介護度は年々上昇し、令和 5 年 5 月 1 日現在、4.27 となっており、利用者の重度化が進んでいる。

コロナ禍となり、業務縮小等の影響によって ADL が低下傾向にある利用者もあることから、嚥下機能を含む利用者ケアと重度化防止に資する体制の強化を図っていく。

また、身体拘束はゼロであった。

【ショートステイ】

コロナ禍の影響を大きく受け、空床利用含む受け入れの中止やキャンセルが増加。前年よりも稼働率が低下することとなった。空床利用は前年度の 94 日から 51 日と大幅に減少、今後も特養と連携しつつ、的確に利用調整を行っていく。

他施設が断った利用者の受入、透析・点滴・インスリンへの対応、夕方退所後の入所や、送迎を 365 日で対応した。

コロナ禍で計画的に進められない状況があったが、24 時間シートの運用や個々のアセスメント表の作成による、統一したケア及び自立支援を行いつつ、居宅でのご様子や環境なども聞き、入所前の居室準備やケアに活かすなど個別ケアの充実に努めた。今後も関係機関との連携を強化しながら、スタッフ一丸となって取り組む。

【デイサービス】

令和4年度は平均介護度 1.8、平均稼働率 61.6%（前年度 69.2%）年間利用延べ総数 7,739 名であった。（前年度の利用延べ総数は 7,628 名）感染拡大防止の観点から休止や利用の自粛等が増加、事業拡大の観点から7月より定員を35名から40名としたが、コロナ禍の影響を大きく受け、予算達成には至らなかった。

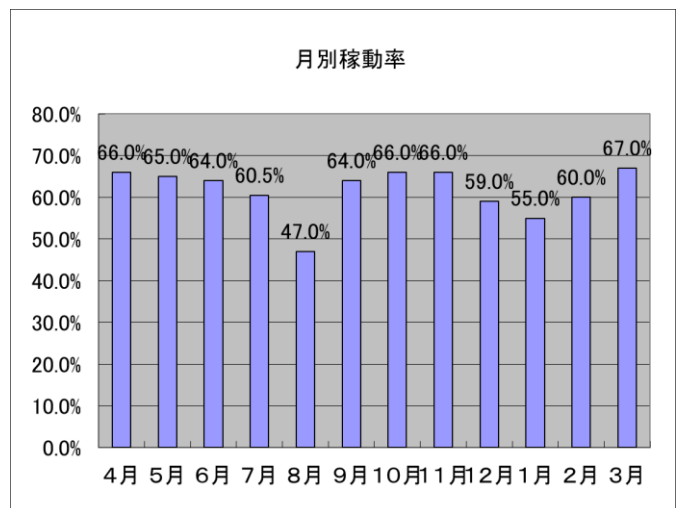
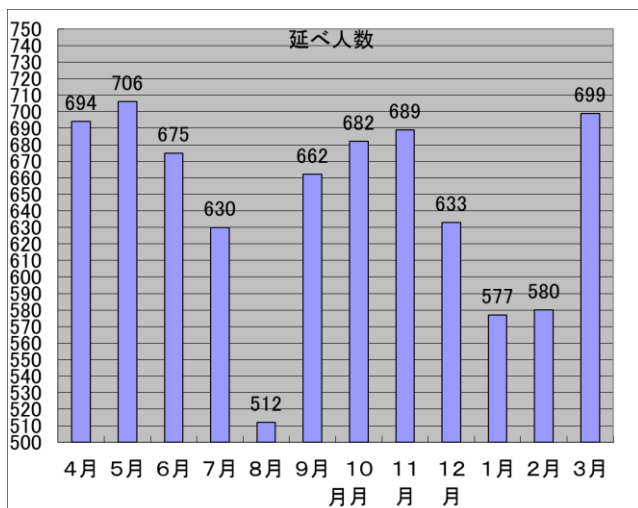
多様なレクリエーション活動・専門職による個別機能訓練等を実施し、介護度を維持することができている。総合事業については一定の介護度維持が出来ていると評価を受け、令和5年度より自立支援強化・評価加算を算定できる運びとなった。

機能訓練では、機能訓練指導員が3名体制（訪問看護との兼務）で機能訓練加算Ⅰ及びⅡを実施、利用者の9割が機能訓練を希望し、サービス提供を行っている。訓練に関しては、機能面の向上が確認される利用者があった。また、転倒が多い利用者については、居宅訪問を行い、環境調整等を行うことで転倒が少なくなってきたとの報告もあった。機能訓練希望者が増える一方で、新型コロナウイルスの影響で小集団での運動を5人から3人へと減らしている状況もあり、利用者ニーズに corres ponding する体制に課題がある。（令和5年度は5人に改善）

認知症高齢者や中重度要介護者の受け入れについては、迅速に受け入れニーズに沿ったサービスを提供し、住み慣れた地域・環境で生活できるように支援できた。（要介護3：10名、要介護4：9名）

今後も利用者が楽しみながら、在宅生活の継続に資するプログラムを提供しつつ、自立支援・重度化防止に資する質の高いサービス提供に向けて多職種が連携して取り組んでいく。

令和4年度利用者状況												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1日	17	17	26	26	31	26	19	27	24	/	22	23
2日	20	25	26	25	24	27	/	24	24	18	21	25
3日	17	22	28	/	29	22	29	26	21	17	25	29
4日	28	23	21	10	24	/	25	28	/	21	24	25
5日	24	23	17	24	0	29	29	22	29	23	/	/
6日	22	21	28	24	0	23	26	/	24	27	26	27
7日	22	22	21	22	/	26	27	24	23	27	26	28
8日	23	20	25	24	3	24	23	27	20	/	17	21
9日	19	25	23	23	6	27	/	27	27	23	26	30
10日	19	24	21	/	28	24	27	26	19	24	28	28
11日	29	24	22	29	22	/	26	28	/	23	21	29
12日	22	22	14	21	20	31	29	24	28	27	/	/
13日	24	25	27	26	0	26	28	/	25	27	24	28
14日	21	20	26	20	/	31	24	29	27	25	24	28
15日	25	17	23	25	0	28	25	28	24	/	18	23
16日	22	28	22	24	11	26	/	22	24	24	26	30
17日	18	24	24	/	19	25	25	27	22	19	26	28
18日	29	25	21	30	22	/	26	29	/	21	22	24
19日	24	21	15	23	22	24	29	23	28	24	/	/
20日	24	22	27	27	21	20	28	/	21	28	24	23
21日	24	18	20	23	/	31	27	27	22	24	23	26
22日	28	18	24	24	29	23	24	26	21	/	19	22
23日	23	28	20	23	21	21	/	29	24	26	31	29
24日	20	25	24	/	28	23	25	28	20	21	28	29
25日	30	26	18	33	23	/	29	29	/	10	26	28
26日	25	26	15	22	26	24	29	25	26	15	/	/
27日	25	26	28	25	22	24	26	/	26	18	27	27
28日	22	21	23	25	/	28	28	30	25	18	26	28
29日	25	16	25	26	29	24	24	27	18	/	/	22
30日	23	27	21	26	24	25	/	27	20	24	/	30
31日	/	25	/	/	28	/	25	/	21	23	/	32
月平均												
合計	694	706	675	630	512	662	682	689	633	577	580	699



3名体制を維持し、特定事業所加算Ⅲを算定。24時間の連絡体制を整え、週1回の会議、計画的な研修の実施、地域包括支援センター等が実施する事例検討会への参加等を行った。新規の依頼は月に5~10件。地域包括支援センターを介さず、病院や地域住民から直接相談もある。(直接相談の場合は、軽度者のケースが多い)

令和4年度は、介護報酬改定があった令和3年度の事業計画を引き継ぐ内容として、報酬改定を反映した重要施策として、テクノロジーの活用、自立支援・重度化防止の取り組み、共生社会の実現に向けた取り組み、感染症や災害への対応力強化を取り入れ、その深化を進める一年であった。

テクノロジーの活用では、オンライン形式の研修に円滑に参加できた。松江赤十字病院では、まめネットのweb会議システムを活用しており、当法人もまめネットweb会議システムを導入、月に1回以下ではあるが、松江赤十字病院間と退院前カンファレンスをweb会議システムを使用して実施。対面でのカンファレンスが良いと言う声が多いが、感染予防や効率化のため、使い分けて活用していきたい。

自立支援・重度化防止の取り組みは、介護サービス提供事業者間でLIFEを意識した連携を行った。

共生社会実現に向けた取り組みは、令和4年6月に大輪団地で月2回通所B(総合事業の住民主体の通所型サービス)が開始され、職員が交代で参加し、地域住民との関係作りを行った。また、令和4年度より「ふくしなんでも相談窓口」を開設したが、地域住民に十分に認知されておらず、相談は0件だった。

感染症や災害への対応力強化(計画的な研修含む)は、計画通り行えた。今後も、テクノロジーの活用や業務効率化、自立支援・重度化防止の取り組み(退院支援を含む)、感染症や災害への対応力強化に継続して取り組んでいく。

令和4年度はケアマネ増員を計画し求人活動を実施、令和5年1月末に求職者があり、令和5年4月からの採用とした。増員により、軽度者でも近隣に住まいの方や、訪看やデイサービスの利用希望があれば受け持つように努める。

新型コロナの位置づけが「5類」へ移行となったが、地域の状況がコロナ前に戻るわけではなく、公民館活動が縮小・中止されることで、地域アセスメントが行いにくい状況が続く可能性や、地域住民の活動に変化が生じることが見込まれる。地域活動の動向を注視しつつ、共生社会の実現を目指していく。大輪団地通所Bの参加者向けに、出前講座を3か月に1回の頻度で行う予定。

【訪問看護ステーション】

24時間365日「断らないステーション」として活動。開設から3年が経過、体制が安定し、医療機関や居宅介護支援事業所、関係する介護事業所等との信頼関係が強くなってきたこと及び作業療法士の入職により、医療保険の新規依頼が増加(前年比)、登録者数も78名まで増となった。(前年度60名、前々年度40名)

医療機関からの相談で50代、60代の要介護認定前の生活保護者に医療保険で入るケースや、要介護認定後にカラフルケアプランセンターが担当となるケース、訪問看護の利用者の通所介護利用に繋げるといった拠点内の連携を図ることができた。

年間の看取り件数は1件だったが要因として、24時間対応の在宅医の調整に時間がかかることや、家族の介護力の不安から入院となったケースが多くあった。

訪問リハビリの登録件数は24（名）を常勤換算1.5人体制で対応している。（令和3年度は登録14名・常勤換算1名体制）利用者・家族からの要望やニーズなどを確認しながら現状を評価し、目標を提示、目標に向けた訓練を施行している。また、昨年に引き続き、訪問外の時間にも運動を行っていただけるよう自主運動の資料や記録用紙、道具などを提供することで、活動性の向上や疼痛の軽減につながった例もあった。多職種と連携し、状態の変化に合わせて福祉用具や他サービスの提案、それらのスムーズな移行・運用にも努めた。

入院や施設入所・死亡等により、毎月5名程度の中止・終了があること等により、稼働率には波がある。安定した経営を考慮し、引き続き法人内外の関係先との連携を更に深め、更なる利用拡大に向けて、看護・リハとも増員を計画していく。

コロナ禍の影響を受け、外部研修への積極的な参加はできなかったが、事業所内での勉強会を継続的に行い、資質向上に努めた。

今後の活躍が期待される特定看護師について（当ステーションでは、褥瘡管理関連及び栄養と水分管理に係る薬剤投与関連の特定行為が可能な特定看護師が所属している）は将来的に機能強化型ステーションとなり、活躍の場を広げていくことを目指していく必要がある。

【配食サービス】

当法人の独自のサービスに併せ平成30年9月から松江市食の自立支援事業を受託。両事業合わせ1日平均38.7食（前年度平均41.6食）、年間14,147食（前年度15,199食）の提供を365日体制で行った。

独居により食事の用意をすることが困難な方、療養食やゼリー食などの特別食を必要としている方、家族の不在時の利用、ヘルパーが入る日以外利用、土日の配達をしていない他業者との併用、食事形態の調整や定期的な見守り・服薬の確認、食事の温め等をニーズに応じて実施した。

救急対応及び119番通報や担当ケアマネ等への連絡、安否確認を含め、今後も“地域の目”としての機能を果たしていく。

③ 地域における公益的な取り組み

松江市内の中学校に出前授業を実施する「介護の基礎的講座」に福祉のお仕事コンシェルジュとして5名を登録し派遣、講義及び体験学習を実施した。この他、地域福祉の発展に向けて、講師の派遣（無料）及び学生の受け入れ等を実施し、関係機関及び地域住民との連携強化に努めた。また3月から11月の間、古江公民館の清掃ボランティアに参加した。

●出前講座・講師の派遣

○令和4年度 介護の出前授業（基礎的講座）

・乃木小	4年生	68名	6月28日	体験
・母衣小	3年生	約90名	9月15日	講義・体験
・湖北中	3年生	約60名	11月2日	講義・体験
・松江一中	2年生	約200名	10月20日	講義
・松江三中	2年生	約100名	10月25日	講義・体験

○出前講座

- ・恵曇小学校 PTAからの依頼 保護者 約20名 10月28日 車椅子体験
- ・島根県及び松江市共催「介護の日PR」イベント
男性のための介護ミニ講座 40歳以上の男性16名女性1名 11月13日
しまね介護トークセッション（動画制作）職員3名が出演 11月13日収録
- ・松江東高 3年生 3名と職員2名 11月30日 認知症サポーター養成講座

○夏休み介護の体験事業（主催：島根県 体験場所：松江農林高校）

- ・島根県内中高生 7名 8月18日 福祉車両説明・食事形態等説明・講義

○初任者研修

- ・松江農林高校 2名 3年生 8月1、2日
2名 3年生 12月21、22日

○インターンシップ

- ・松江農林高校 2年生 1名 10月12～15日

○実習受入

- ・島根県立大学 教育実習生 9月12～16日
- ・YMCA 米子医療福祉専門学校 PT実習生 9月12～16日

○大輪団地 つどいの広場 月1回 10日の10時～12時

- ・運営は大輪団地住民。団地事業者として参加。地域の声を聴く場を持っている。

○城北公民館区活動のサポート 松江市が行なうフレイル測定会 10月12日

○古江地区清掃活動（毎月参加）

○まつえ「子ども夢☆未来塾」等、教育委員会からの依頼

- ・湖南中 3年生 約50名 9月22日 総合学習
- ・松江一中 3年生 約100名 10月20日 総合学習
- ・東出雲中 3年生 約200名 11月22日 総合学習
- ・松江西高 3年生 2名 6月14日 企業との放課後座談会

○松江市総合計画・総合戦略推進会議、松江市社会福祉審議会（分科会含む）

松江市介護人材確保検討会議、松江市 ACP 普及啓発推進協議会

松江市身寄りのない方の支援ガイドライン策定委員会及び研修会 すべて出席

- ・松江市発行の介護職 PR 冊子「介護のしごとで私の未来をソウゾウしてみよう」

発行に際する取材・校正への協力

④ 感染症対策

令和4年度も新型コロナウイルス感染症への対策として、予防策の徹底、マニュアルの改定、PPE の研修を実施した。感染症対策を強化した体制は、利用者の生活、家族等との面会、外部業者の立入、職場内外の行動範囲など様々に制限が入ることとなり、生活や業務に様々に環境の変化が生じていることから、地域の状況をモニタリングしつつ、課題を整理したうえで、対策マニュアルを随時更新し、必要な対応を講じた。また、介護保険制度改正により、BCP（事業継続計画）の策定が義務化されたことから、必要な対応を現場及び経営の双方で構築するべく、引き続き、感染症対策委員会にて検討を進める。

⑤ 防災

火災や土砂災害等に関する定期訓練を実施しつつ、原子力災害に関する避難訓練は、午前中に業者による陽圧化装置の定期点検を実施し（外部業者による点検は屋外にて実施）、午後より原子力災害への初動対応、施設の陽圧化（アララベンチの稼動・養生等）についてコロナ禍を鑑み、訓練の記録画像及びマニュアルを使用した研修を実施した。

介護保険制度改正により、BCP（事業継続計画）の策定が義務化されたことから、必要な対応を現場及び経営の双方で構築するべく、引き続き、災害対策委員会にて検討を進める。

⑥ 苦情（0件）

令和4年度の苦情は0件であった。

以上